ナカラ回廊の玄関口を強化

ナカラ港の全景

ナカラ港を利用するコンテナ船

新設岸壁と港湾ゲート

ナカラ港開発Ⅰ・Ⅱ期工事（モザンビーク）
五洋建設、東亜建設工業

アフリカ南東部に位置するモザンビークのナカラ港は、ナカラ回廊と呼ばれる同国北部から内陸諸国を結ぶ国際物流ルートの玄関口となっている。同港の機能強化を目的に五洋建設・東亜建設工業ＪＶが施工した「ナカラ港開発Ⅰ・Ⅱ期工事」では、既存港の増深・埋め立てによってコンテナ船専用ふ頭を含む港湾施設を再整備した。これにより同港の輸送能力が強化され、ナカラ回廊地域各国の発展と活性化に貢献している。

港湾エントランス道路と鉄道ターミナル

既存岸壁の安定確保し増深

同工事はモザンビーク政府発注の有償円借款プロジェクト。コンテナヤードと港湾アクセス道路、ゲート、上下水道・電気通信設備の再整備に加えて、将来のコンテナ取扱量の増加に対応した設備を新規に整備した。

具体的には北ふ頭岸壁の増深（14㍍）、バイパス道路（1㌔）による港湾へのアクセス強化、浚渫土（25万立方㍍）を再利用した埋め立てによるヤード拡張、汚染された浚渫土の処理施設などを建設した。

港の増深では新設岸壁を構築し、その前面を浚渫することで大型船舶が接岸できるようにしたが、増深浚渫ののり面が接近する既設岸壁（重力式）の安定に影響しない対策が求められた。このため、北端部の構造変更により不要となった鋼管矢板を利用し、既設岸壁前面に自立土留め壁を設置することによって、既設岸壁の安定を確保した。

浚渫土を埋め立てに利用する際には、汚染された一部の浚渫土を日本の技術である遮水鋼製壁を利用した汚染土密閉施設内で処理した。

概要

▷実施者＝五洋建設、東亜建設工業
▷実施国＝モザンビーク共和国
▷実施都市・地区＝ナンプラ州ナカラ郡
▷プロジェクト関係者＝Ministry of Transport and Communications of Mozambique（発注者）、オリエンタルコンサルタンツグローバル（設計者）、エコー（同）、Edgar Cardoso Moçambique(同)、PROMAN Centro de Estudos e Projectos（同）
▷実施期間＝2018年７月―23年10月